

センター試験 生物 I (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：5 題	解答数：33 問
難易度の変化（対昨年比）	○ 難化 ○ やや難化	● ほぼ同じ ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年比）	● 多い	○ ほぼ同じ ○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

全体的に大きな出題傾向の変化は無い。一つ一つの問題の難易度は下がっているが、ページ数で3ページ、マーク数で3つ増えているので、一概に解きやすくなったとは言えない。

実験の内容が図示・説明され、それをもとに考察させる問題が必ず各大問の一つ以上入っている。それぞれの実験に関しては複雑なものではないが、受験生にとってあまりなじみがないものもあったかも知れない。これらの内容を時間内で把握し適切な選択肢を選ぶことができたかどうかで得点率を左右したのであろう。

各単元からまんべんなく出題されている。これについては毎年のことであるが、早期から対策をし、全ての単元の学習をもれなくする必要がある。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	A…細胞の構造 B…神経	20 点	設問 B の問 6 は、実験結果が文章で説明されていたが「細胞体・軸索・シナプス小胞」といった用語を図とともに思い出せないと難しかったのではないだろうか。 設問 B の問 6 以外は、比較的良く見かける問題であった。
第2問	A…生殖 （生殖法・植物の生殖） B…生殖（精子の構造） C…発生	20 点	A については頻出事項であった。 B は資料を落ち着いて読めば、知識が無くても解ける問題であった。 C の問 6 に関しては、行うべき実験を考えさせるという問題であったが、実験内容そのものは頻出の事柄であった。
第3問	A…性染色体・伴性遺伝 B…不完全優性 C…連鎖と組換え	20 点	遺伝の問題については、全て平易な問題であったが、C の問 7 に関しては図に対する説明が少なく、戸惑った受験生も多かったであろう。
第4問	A…体液（浸透圧調節） B…体液（血液）	20 点	体液の問題は平易な問題であった。
第5問	A…光合成 B…植物ホルモン	20 点	初めて見た資料や実験だった受験生もいたと思われるが、説明が丁寧になされているのでよく読んで考えれば解けたのではないか。